

何故日本人は鉄砲を捨てた

十六世紀後半、日本は西欧に先駆け鉄砲の大量生産に成功し、かつ大量に使用した。しかし武士は鉄砲を潔しとしなかった。離れたところから隠れ簡単に殺傷する卑怯な飛び道具。「火器」の研究と開発をやめ、世界の主導国が経験しないかつてない歴史的な平和な時代、文化を築いた。私達の祖先は世界史に残る未曾有のことをやってのけたのです。刀剣に戻ったのです。「火器は悪魔の機械」とマル

ティーン・ルターも言っている。前にも書きましたが世界の八大文明圏で日本が唯一、一国だけで文明を築いた特異な存在です。

日本は二回も原爆を落とされ、使用国に対峙のため、卑怯な飛び道具の「核」を持ち、見事に「武士の魂」に戻る。日本ソフトパワーの文明です。政府の「非核三原則」は嘘。密約は存在し、世界の常識です。属国の日本の末路は・・・。

心の充足

ギーや資源消費を最小限にしたまま、人間が最大多数の最大幸福を実現できる社会の模索であろう。要するに物の追及から、心の充足社会への移行である。環境負荷を上げないベーシックで、階層的に弱者を設けない社会造りが必要だと思ふ。それは欲望消費の原型を根本的に見直す生き方の創造しかない。そうしなければ、

世界に不幸をもたらす金融資本主義の暴走はまた起る。世界金融危機が叫ばれて、NHKなどには国際金融資本

の大手会社の重役連中が顔をよく出していたが、彼らの顔に共通するものは限らない卑しさとでも言うか、品性のなさである。実体的ない数字的マネーの飽くなき追及が彼らの顔をバンパイアのように変えてしまった。世界中の美食を毎日堪能する生活は必然的に多くの人の飢餓の上に成り立っている。

そんな世界を志向するより、一杯四百円に満たないラーメンを食べ、生活の喜びを感じ、方がどれほど人間らしいか、どれほど幸せなことか、言っても言い足りない気持がある。人が大勢苦しむ中で、自分だけが安楽で楽しい暮らしをするような世界を強く嫌悪する。金融資本主義が膨張する世界とはまさにそういう世界だ。

物質や金銭の追及には限度

がない。それをあくせくやっているうちに顔が下品になってくる。人間の幸福はどこへ行っても、社会が安定し、弱者があんまりいないところから暮らせる経済体制、政治体制にしかないのではないのか。経済システムはこれを実現しなかった。多くのご近所が地獄の苦しみに喘いでいるところ

で、ごく限られた恵まれた人にも幸福はやってこない。社会が荒廃するからだ。

アメリカは幸福経済の失敗例である。最適経済のヒントは、アメリカの地獄を見究めたところから出てくるのではないのか。



8月13日(木)~16日(日) 勝手ながら夏期休暇です

(有)西川経営オフィスサービス

中村会計

事務所便り

2009年7月23日(木) N046

地域から明るい未来を作ろう

◆ ◆ ◆

資本主義はしばらくは上手く行っていた。ご存知のように最適と思われていたこのシステムも、金融資本主義の無茶苦茶な膨張は、無残にもセーフティネットを破壊してしまつた。ひどい話は、福祉からも最大効率の利益を得ようとすると、やからがあらわれ、社会制度をおびやかしている。人類は環境を破壊し、活き活きした生存リアリティをすべて押しつぶすような経済システムをやめるしかないと思ふ。

新しい型の文明に整合する経済システムは、大量生産・大量消費から脱却し、エネルギー

次期総選挙は、政・財(罪)・官・報道・外国が支配する

利権政治を維持するののか、それとも「国民の幸福を追求する新政権」を樹立する

のかが問われています。

①大資本のための政治

②官僚のための政治

③外国勢力のための政治

を排除して「国民のための

維新

政治」を確立することが政権交代の目的です。

この目的を実現するため

①企業献金の全面禁止

②天下りの根絶

③日本郵政経営体制の刷新

が、極めて重要になる。

官僚利権などの巨大な無駄を温存したまま、その負担を一般庶民に押し付ける消費税大増税は絶対に許すことはできない。

④消費税大増税封印

も、重要な政権公約になる。

⑤セーフティネットの確立

この五つの、具体的な政権公約の政党はどこだ。